

2019年1月13日 週報巻頭言

新鮮な心で

イエスの伝道活動は『お育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしお立ちになった』(ルカ4:16)とあります。故郷伝道の開始です。

伝道で難しいのは、ふるさとでの伝道です。家族は「わたし」の欠点、失敗したことなどすべてを知っているからです。ふるさとではちいさい頃からのいたずらしたこと、ありのままの姿を知られています。知られていることは、考えようによってはよいことです。『この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか』(マルコ6:3)

ナザレの人々はイエスを幼少のころから知っているというのです。とてもよいことです。しかし、ことがらによってはこれ以上の理解へ進まないということです。聖書ははっきりといいます。『こうして彼らはイエスにつまずいた。』

現代のわれわれも、聖書を読んで知っている。説教で聞いた……。で終るのではなく、新鮮な心で日々聖書にまた説教に耳を傾けていきたいものです。

(山下誠也)